

「批判力」について

～自分力を養うために～

シンキング・バース
日本語研究班

赤ちゃんが 生まれる弁証法

日 本語の「批判」ということばは、好印象を与えないことばの一つです。「批判ばかりしていて、生産的ではない」とか、「批判している暇があったら、やってみろ」とか、「ああ言えばこう言うで、話にならない」とか、「批判」はまるで、してはならないことのように受け止められがちです。

近代哲学の一つに、《弁証法》という考え方があります。ボクが《弁証法》を正しく理解しているかどうかはわかりませんが、その基本は、対立的なものが関係し合って、新しいものは生まれると理解しています。「正反合」と日本語では言います。男の人と女の人に関係し合い、赤ちゃんが生まれることに似ています。男の人と女の方は、考え方がちがうケースが良くあります。でも、そのちがいを乗り越え（止揚し）て、新しい命が生まれるのです。

●メディア・リテラシーと批判力

英 語の Critic（批判）ということばは、「メディア・リテラシー」を考える上では、欠かせない要素とされています。メディアが伝えることが正しいのか、まちがっているのか、それを判断するためには、批判力が欠かせないからです。

例えば「芋煮汁」の味付けをメディアが、「味噌味」が正統派のように伝えたら、「醤油味」に馴染んだ人たちは、



違和感を覚えます。醤油味派が反論し、味噌味派と正統派論争が起きました。醤油味派のメディア批判は正当で、両方あり、なのです。批判が功を奏し、「きょうは何味にする？」と日替わりで別の味を楽しむようになるのは、良いことです。ちなみに、ボクの地域では、「芋煮汁」ではなく「芋の子汁」と言い、醤油味です。

また、「殿が白と言ったら、黒も白なんだ」という言い方が、昔ありました。「黒は黒」と言うのが批判力です。「黒も白」と言うのは、詭弁（デマゴギー）だからです。

●「批判」と「悪口」はちがう！

ボ クたちは、「ああ言えばこう言う」的なやりとりを、批判力とは言いません。「切磋琢磨」ということばがあるように、より良いものを作り出す力を批判力と考えています。結論をうやむやにするための「ああ言えばこう言う」は、《弁証法》にならず、詭弁に陥りがちです。

「批判」はけして、人を悪く言い、貶めることではありません。また、「批判」を禁じていては、新しいものは生まれません。「批判」があるから、生まれるものがあり、「切磋琢磨」が成り立つのです。

(2018年9月20日)

シンキング・バース新書

「批判力」について

2018年9月20日（初版）発行

著者：シンキング・バース

日本語研究班

発行者：遊佐 芳泰

発行所：**シンキング・バース**

〒021-0821

岩手県一関市三関字神田105番5号

電話／FAX 0191-23-0724

※この論考の著作権は、図表を含めてシンキング・バースに帰属しています。複写、無断転載、無断転用は固くお断りします。